

「ないものはない」のキャッチフレーズや「高校魅力化プロジェクト」等、地方創生に向けた様々な取り組みで有名な海士町。JICA事業を通じて、海士町の取り組みを学びに、様々な途上国から研修員が訪れています。また、海士町で長年取り組んでいる課題解決型の探求学習を通じて、ブータンの教育魅力化にも取り組んでいます。グローバルプログラム (GP) 実習生として派遣前の協力隊訓練生の受入れも行っています。これらの「よそ者」との交流が海士町のグローバル人材の育成と、地域のさらなる魅力化に繋がっています。

## 取り組み年表

2000

2010

2020

●地域独自の取り組み

●JICAとの連携事業

●別機関の事業

### 地域の課題

- 人口流出と高齢化
- 高校廃校の危機
- 財源不足

### 地域のリソース

- 離島「ないものはない」
- ジオパーク
- 歴史と文化

ブータン

●2004 海士町自立促進プラン

●2009 島前高校魅力化プロジェクト「隠岐学園学習センター」夢ゼミ/島留学

2015- 課題解決型の探求学習 (PBL)

2020- 大人の島留学

2015- JICA-海士町での要人往来

2016- JICAの研修員受入事業 (課題別研修、国別研修、青年研修) の実施

2017- JICAから海士町への出向者 (累計: 職員4名、特別嘱託1名)

●2018 JICAとの連携協定

●2020 海士町エンジン全開計画

●2016 日本財団Social Innovation 最優秀賞 → ブータン視察

●2017 JICA中国の「地方創生リソース活用調査」

●ブータン向け青年研修「地方行政」の実施

2017-19 Edu.Port事業: PBLのブータンへの導入

2022-24 草の根技術協力事業「地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト」

●2019 JICA理事長賞の受賞

2022- GP実習生の受入れ

●2024 協力隊連携派遣覚書の締結

## 新たな「よそ者」との交流とグローバル人材育成

### 海士町の地方創生への取組み

2000年頃の海士町では住民の島外流出が止まらず、少子高齢化、高校廃校の危機等の課題に直面していました。島の生き残りをかけて改革が進められ、「ないものはない」、高校魅力化プロジェクト、大人の島留学生などの海士町独自の取り組みを通じて、町のアイデンティティが確立され、移住者の増加に繋がりました。今後の持続可能な社会の実現に向けて、世界レベルの視野を持ち、地域の課題解決を担える「グローバル人材」育成の必要性が認識され始め、島前高校の「教育魅力化プログラム」の中で人材育成に取り組んでいました。

### JICAとの連携

海士町が海外との連携を志向する中でJICAとの連携を模索し、2015年頃からJICAの研修員受入事業や、職員の出向による人事交流が開始され、2018年にJICAと海士町の連携協定が締結されました。

途上国研修員の受入れでは、海士町の地域振興の取り組みや教育魅力化、観光分野の知見を提供すると共に、小学校の総合的な学習の時間に学校訪問を実施し、途上国研修員と子どもたちの交流の機会を持っています。

### ブータンとの連携

海士町が掲げる「ないものはない」のコンセプトと、ブータンのGross National Happinessは親和性が高く、ブータンとの連携を模索し始めました。「教育魅力化プロジェクト」における地域課題解決学習 (PBL) をブータンに導入し、草の根技術協力事業を通して、自ら考えて地域の課題解決を図る資質・能力を育成するブータン版PBLの成功モデルづくりを目指しています。島前高校とブータンの高校生の交流を通じて共創共学で高め合うため、年3回の現地渡航の内、1回は高校生を派遣し、探求学習の中間成果を発表し合い議論を行ないました。JICAの事業に現役の高校生が関わる珍しい取り組みとなっています。

### 協力隊経験者等の「よそ者」との交流

2020年からは、JICAグローバルプログラム生 (GP生) の受入れも実施しており、地域コミュニティに入り、課題解決型の活動を展開しています。出前講座や国際協力写真展の実施など、島に移住した協力隊経験者を巻き込んだ活動も行なわれています。JICA事業を通じて、海士町を訪れる「よそ者」が増え、「よそ者」との交流が海士町のアイデンティティを強化し、町民の意識をさらに高め、グローバル人材の育成や地域のさらなる魅力化に繋がっています。

